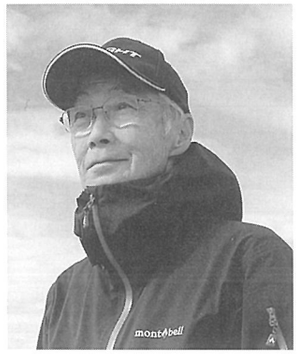
新年を迎えて

代表取締役　鈴木英介



当社は昨年度、記念すべき第60期でした。9月末の決算では過去最高の47億8700万円の売り上げをあげることができました。会社の創業はその7年ほど前ですが、7年間は塗料販売会社、間瀬屋商店の片隅で、土日のみの定期清掃を中心に行っていました。本格的に「新潟ビルサービス」という会社組織にして、単独決算を行ってから60年という事になります。初年度の売上が918万円だったことから見ると、60年の重みを感じます。

当時の父の書いたものを見ると、初めての新潟ビルサービス社員が入ったので、喜んで社会保険事務所に保険加入申請しに行ったら、一人の事業所ではだめだと断られたという記述があります。

そもそもそれ以前、新潟には「ビルサービス」という産業はなく、当社が新潟ビルサービスを名乗っているのも、新潟で最初のビルサービスだからです。まさに経済学で言う「供給は自らその需要を作り出す」というという命題を地でいっている気がします。創業当初の話によれば、そもそもビルサービスとは何か?という事を説明し営業をしたそうです。

新産業はこの様に創業され、また消えていく産業もあります。現代では国際分業のもとに、外国に産業そのものが移転することもあります。ただビルサービスという仕事はビルがある限りその場所から移転することのできない仕事です。そのビルは少子化にかかわらず増えております。ですからビルサービスの仕事は、今後ますます増えていくものと私は考えています。

日本は人口減少社会に入っていると言われる中で、どうしてビルが増えるのでしょうか。単純に考えると、人が減ればビルもいらなくなるように思われます。新潟市中心部のテナントビルも苦戦していると聞きます。そんな中でも新しいビルは建ちます。

実は現代世界の傾向は「都市化」という事なのです。すでに都市人口は世界の55%を超えたと言われています。これは農業が世界の平地の土地利用面積の過半を占める中で、大変なことです。さらに日本のような狭い先進国では、ほとんどの人が街に住んでいます。日本の産業別就業者の内、農林漁業のような第一次産業に従事している人は、すでに総人口の4%を割っているのです。

人が都市に集まるのは生活に便利だから、だけではありません。そこに仕事があるからなのです。

近代は都市に多くの人を引き付けることにより生産力を拡大してきました。また人々にとっても、様々な社会インフラを共用することで、一人では手に入らない環境を利用することができます。例えばディズニーランドは金持ちでなければ行けないわけではありません。多少の混雑はがまんしても、庶民が行っています。庶民が自動車を所有したり、運転手付きの大型バスに乗って旅行にも行きます。

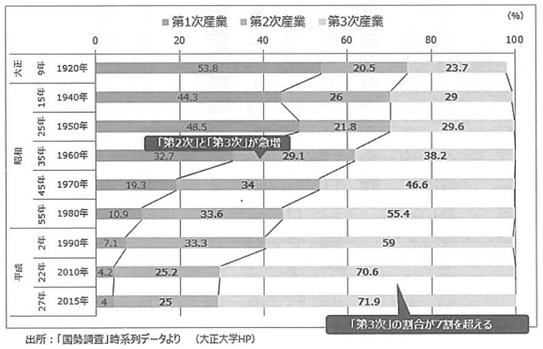
より効率的に生産をおこない、快適な生活を行うために、人々は集中して暮らすことを選びました。人口の減少によって限界集落を捨て、人は街に住むようになったのです。今や都市化は止めることができないのです。現代社会はそのように発展してきました。

私たちの社会は、狩猟採取社会の後、農業が発明され、食べるものが増えるとともに、大きく人口を増やしました。その後、18世紀末の産業革命から工業の時代に移ってきました。現代の傾向はそれが世界規模で展開しているという事なのです。国際分業という事です。

農業と工業の発明は地球人口を劇的に増やす事になりました。現在の地球には77億人の人が住み、2050年には100億人を突破する勢いです。

私たちの日本を見ると、物作り、製造業は他国に移りました。これは円安や円高という小手先の政策では止めることができない、歴史的流れだと思います。

農業社会の中で手工業が生まれたとき、社会では劣った産業とみなされました。農地を相続できない2、3男がやむを得ず物づくりに入ったのです。西洋で貴族は農作業をしても、料理を作ったり、鍬や蹄鉄を打ったりは決してしません。日本では「士農工商」といって工商は劣った職業とされてきました。武士は身分を失えば農民に戻るのが普通でした。「帰農」という言葉があるくらいです。



出所：「国勢調査」時系列データより　(大正大学HP)

今、サービス産業の時代が始まっています。産業革命以来の自動化、機械化の工業的生産システムは様々な製品を庶民の手の届くものにしました。大量生産は大量消費を呼び、需要はさらなる新製品の供給を呼びます。そこでは設備投資のための資本の多寡が問題となりました。

しかし今、金融革命ともいえる資本の市場化の中で、資本さえ市場取引を行う商品となり、世界中を瞬時に飛び交っています。ここではコンピュータをインターネット空間につないだ金融技術（フィンテック）の発達が大きな契機となりました。

その結果、世界では途上国が製造業を行い、先進国がサービス業を行う時代に入りました。形のないサービス製品は、今後より多くの価値を生んでいくと思います。ハードよりソフトの価値が上回りつつあるのです。

新しい時代が始まろうとしています。その中で私たちの仕事、サービス産業はより多くの知識と技術が求められています。

それは今後、現代社会の基幹産業となるのです。